



2026年6月25日

各位

会社名 株式会社ビューティガレージ  
代表者名 代表取締役会長兼CEO 野村 秀輝  
(コード番号:3180 東証プライム)  
問合せ先 執行役員 CAO 齋藤 高広  
(TEL. 03-6805-9785)

(訂正)「2026年4月期 決算補足説明資料」の一部訂正について

当社は、2026年6月9日に発表しました「2026年4月期 決算補足説明資料」について、記載内容の一部に訂正すべき事項が判明したため、下記のとおりお知らせいたします。

## 記

### 1. 訂正の理由

「2026年4月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の開示後、連結計算書類を作成する過程において減損損失の計上額及び1年以内返済予定の長期借入金の算定期間に誤りがあり、記載内容の一部に訂正すべき事項が判明したため、当社の当該決算短信について訂正するとともに、同日に開示いたしました「2026年4月期 決算補足説明資料」についても訂正するものであります。

### 2. 訂正の内容

次頁以降に訂正前と訂正後の内容をそれぞれ記しておりますので、そちらをご参照ください。なお、訂正の箇所には下線を付して表示しております。

以上

- 売上高は全事業において過去最高値を更新し、概ね業績予想通りの着地となった。一方、成長戦略に則った先行投資を行ったことで一時的な費用が発生し、営業利益、経常利益、当期純利益は前年実績を下回る結果となった。

(単位：百万円)

連結	2024年度		2025年度		前年同期比	修正後 業績予想比
	実績値	売上比	実績値	売上比		
売上高	33,721	100.0%	<b>38,197</b>	100.0%	113.3%	100.0%
売上総利益	8,455	25.1%	<b>9,250</b>	24.2%	109.4%	-
販売費及び一般管理費	6,861	20.3%	<b>7,732</b>	20.2%	112.7%	-
営業利益	1,594	4.7%	<b>1,518</b>	4.0%	95.2%	100.5%
経常利益	1,584	4.7%	<b>1,506</b>	3.9%	95.1%	99.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,019	3.0%	<b>932</b>	2.4%	91.5%	92.2%

- 売上高は全事業において過去最高値を更新し、概ね業績予想通りの着地となった。一方、成長戦略に則った先行投資を行ったことで一時的な費用が発生し、営業利益、経常利益、当期純利益は前年実績を下回る結果となった。

(単位：百万円)

連結	2024年度		2025年度		前年同期比	修正後 業績予想比
	実績値	売上比	実績値	売上比		
売上高	33,721	100.0%	<b>38,197</b>	100.0%	113.3%	100.0%
売上総利益	8,455	25.1%	<b>9,250</b>	24.2%	109.4%	-
販売費及び一般管理費	6,861	20.3%	<b>7,732</b>	20.2%	112.7%	-
営業利益	1,594	4.7%	<b>1,518</b>	4.0%	95.2%	100.5%
経常利益	1,584	4.7%	<b>1,506</b>	3.9%	95.1%	99.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,019	3.0%	<b>913</b>	2.4%	<u>89.6%</u>	<u>90.3%</u>

- マテハン設備（固定資産）と長期借入金（固定負債）が増加し、前期比で自己資本比率が低下。

(単位：百万円)

	2024年度末		2025年度			主な増減要因 (前年度末比)	
	実績値	構成比	実績値	構成比	前年度末比		
<b>資産</b>	16,257	100.0%	<b>18,535</b>	100.0%	114.0%		
流動資産	13,093	80.5%	<b>13,495</b>	72.8%	103.1%	✓ マテハン、法人税の 支払い等による現預 金の減少	△912
固定資産	3,164	19.5%	<b>5,039</b>	27.2%	159.3%	✓ 棚卸資産の増加	+631
<b>負債</b>	8,392	51.6%	<b>9,834</b>	53.1%	117.2%	✓ 機械装置及び付属設 備（マテハン等）の 増加	+1,756
流動負債	6,407	39.4%	<b>6,910</b>	37.3%	107.9%	✓ 仕入債務の増加	+331
固定負債	1,984	12.2%	<b>2,923</b>	15.8%	147.3%	✓ 長期借入金の増加	+821
<b>純資産</b>	7,865	48.4%	<b>8,701</b>	46.9%	110.6%	✓ 当期純利益 ✓ 配当金の支払い (期末・中間)	+932 △200
<b>自己資本比率</b>	46.9%		<b>45.3%</b>				
<b>流動比率</b>	204.3%		<b>195.3%</b>				

- マテハン設備（固定資産）と長期借入金（固定負債）が増加し、前期比で自己資本比率が低下。

(単位：百万円)

	2024年度末		2025年度			主な増減要因 (前年度末比)	
	実績値	構成比	実績値	構成比	前年度末比		
<b>資産</b>	16,257	100.0%	<b><u>18,515</u></b>	100.0%	<u>113.9%</u>		
流動資産	13,093	80.5%	<b><u>13,495</u></b>	<u>72.9%</u>	103.1%	✓ マテハン、法人税の 支払い等による現預 金の減少	△912
固定資産	3,164	19.5%	<b><u>5,019</u></b>	<u>27.1%</u>	<u>158.6%</u>	✓ 棚卸資産の増加	+631
<b>負債</b>	8,392	51.6%	<b><u>9,834</u></b>	53.1%	117.2%	✓ 機械装置及び付属設 備（マテハン等）の 増加	+1,756
流動負債	6,407	39.4%	<b><u>6,940</u></b>	<u>37.5%</u>	<u>108.3%</u>	✓ 仕入債務の増加	+331
固定負債	1,984	12.2%	<b><u>2,893</u></b>	<u>15.6%</u>	<u>145.8%</u>	✓ 長期借入金の増加	+801
<b>純資産</b>	7,865	48.4%	<b><u>8,681</u></b>	46.9%	<u>110.4%</u>	✓ 当期純利益 ✓ 配当金の支払い (期末・中間)	<u>+913</u> △200
<b>自己資本比率</b>	46.9%		<b><u>45.2%</u></b>				
<b>流動比率</b>	204.3%		<b><u>194.7%</u></b>				

- 2026年度は、各事業における成長戦略を着実に実行していくことによるトップラインの伸長に加え、物流関連費の抑制による販管費比率の削減が見込まれるため、過去最高益を更新できる見込みです。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2025年度 (実績値)	38,197	1,518	1,506	932
2026年度 (予想値)	<b>43,153</b>	<b>2,217</b>	<b>2,200</b>	<b>1,351</b>
	—	営業利益率 5.1%	経常利益率 5.1%	当期純利益率 3.1%
前年同期比	113.0%	146.0%	146.0%	144.8%

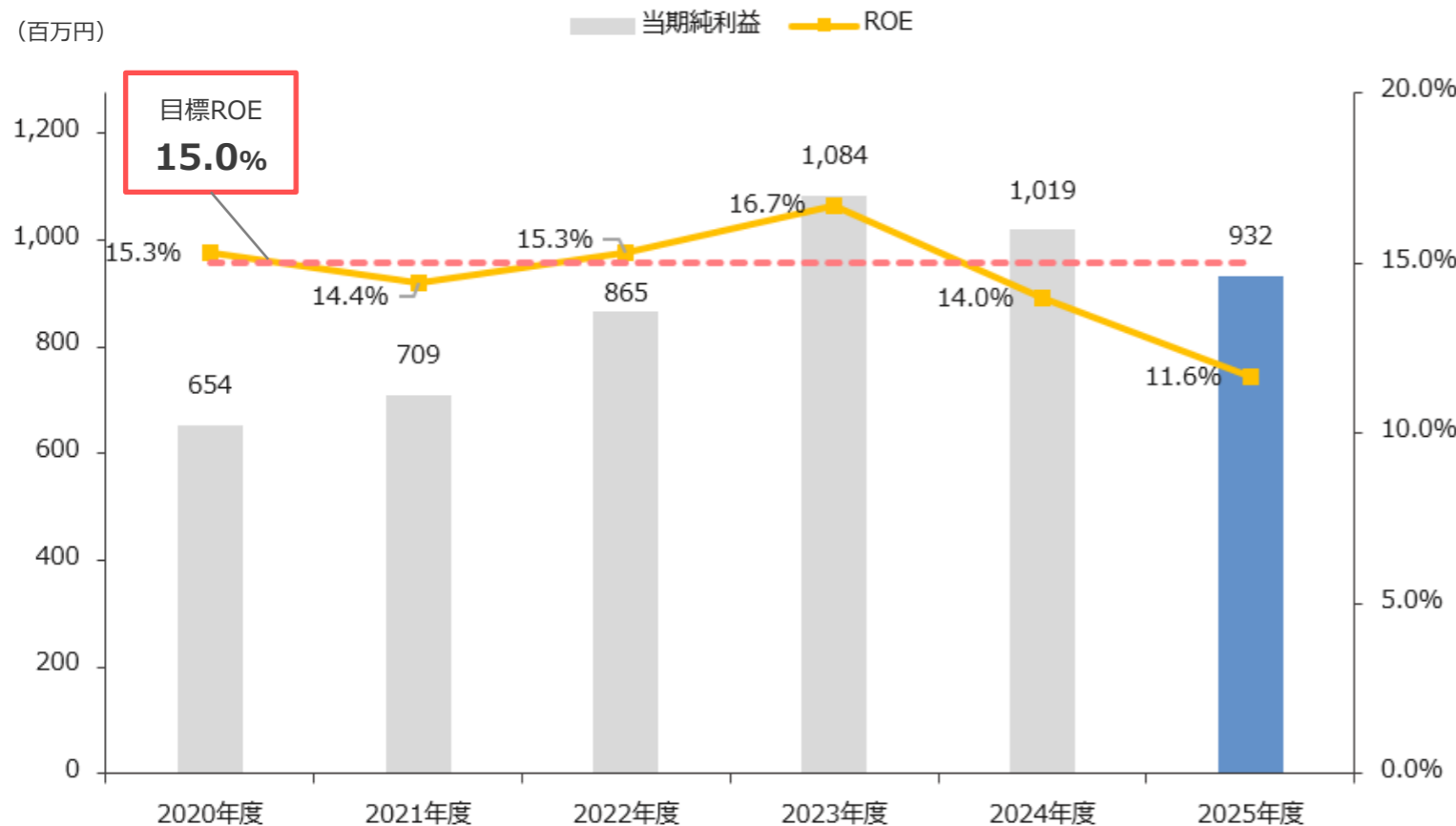
- 2026年度は、各事業における成長戦略を着実に実行していくことによるトップラインの伸長に加え、物流関連費の抑制による販管費比率の削減が見込まれるため、過去最高益を更新できる見込みです。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2025年度 (実績値)	38,197	1,518	1,506	<u>913</u>
2026年度 (予想値)	<b>43,153</b>	<b>2,217</b>	<b>2,200</b>	<b>1,351</b>
	—	営業利益率 5.1%	経常利益率 5.1%	当期純利益率 3.1%
前年同期比	113.0%	146.0%	146.0%	<u>148.0%</u>

ROEは株主資本コストを上回るも、目標ROE15%を2期連続下回る状況。  
 ROE15%超への回帰を図りつつ、資本コストを意識した戦略を展開

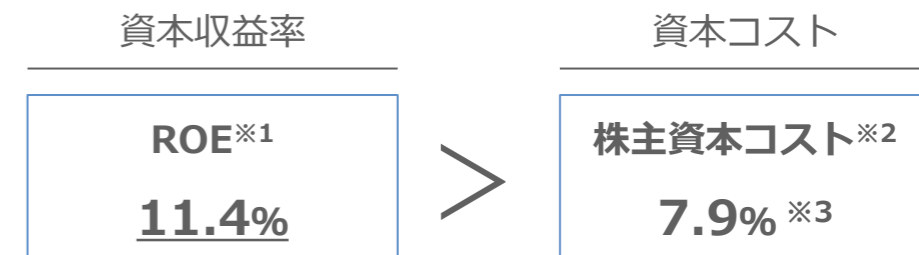
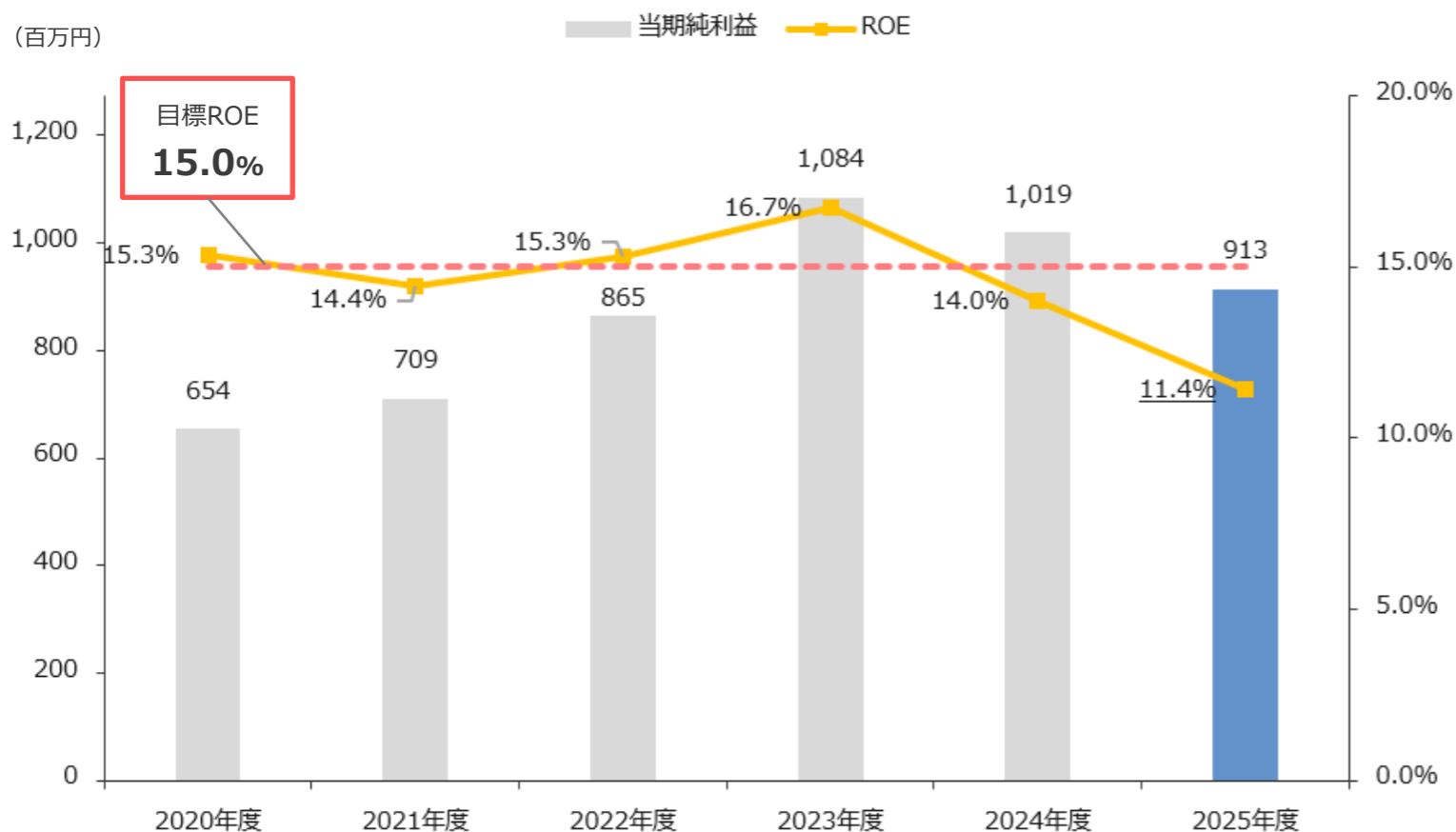
当期純利益とROE



※1 企業から見た収益性を表す指標  
 ※2 株主が当社株に期待する利回り（CAPMを用いて当社試算）  
 ※3 2026年4月末時点の数値

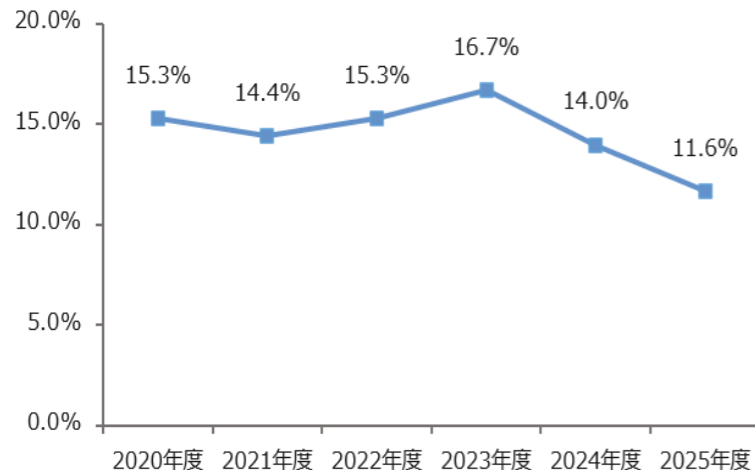
ROEは株主資本コストを上回るも、目標ROE15%を2期連続下回る状況。  
 ROE15%超への回帰を図りつつ、資本コストを意識した戦略を展開

当期純利益とROE



※1 企業から見た収益性を表す指標  
 ※2 株主が当社株に期待する利回り（CAPMを用いて当社試算）  
 ※3 2026年4月末時点の数値

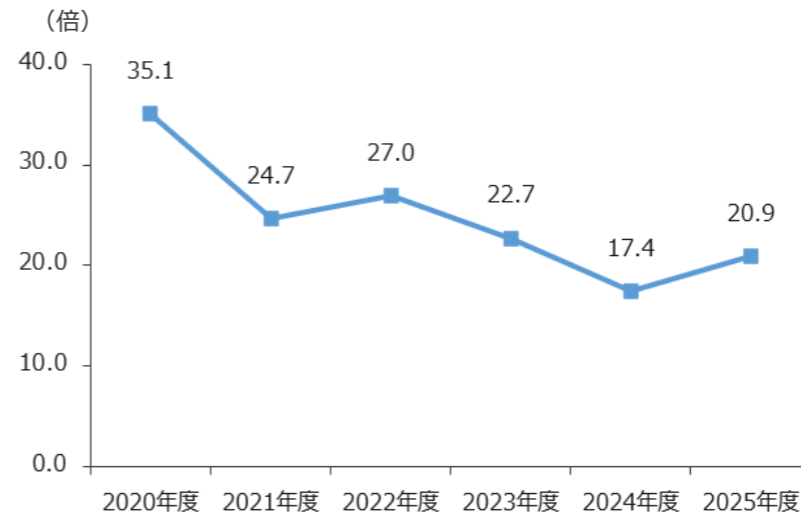
ROE



物流の安定稼働やソリューション事業の拡大などを通じて収益性の向上を図り、ROE15%超を目指す

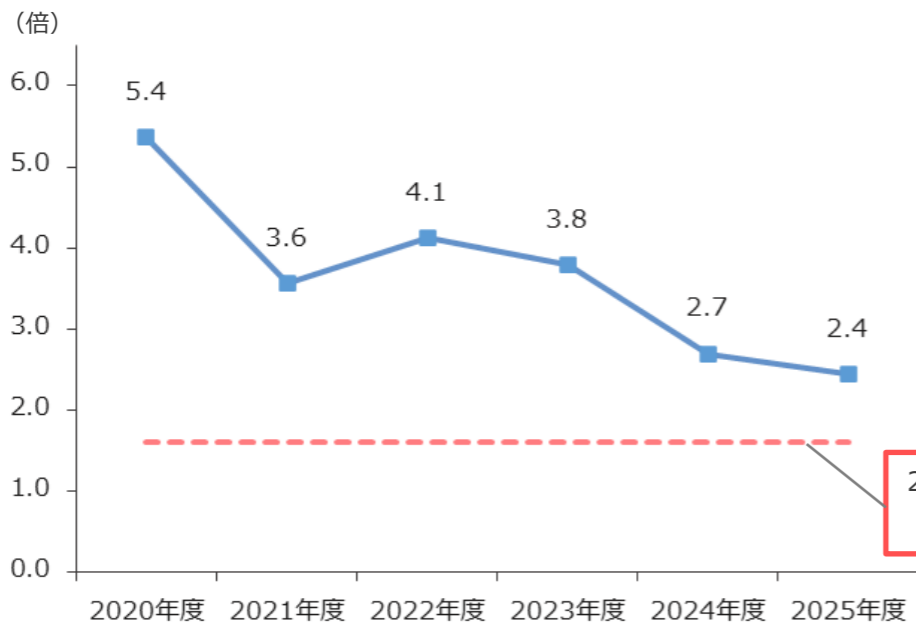
×

PER



中計の着実な実行と業績の伸長を通じて、市場の期待感を醸成

PBR

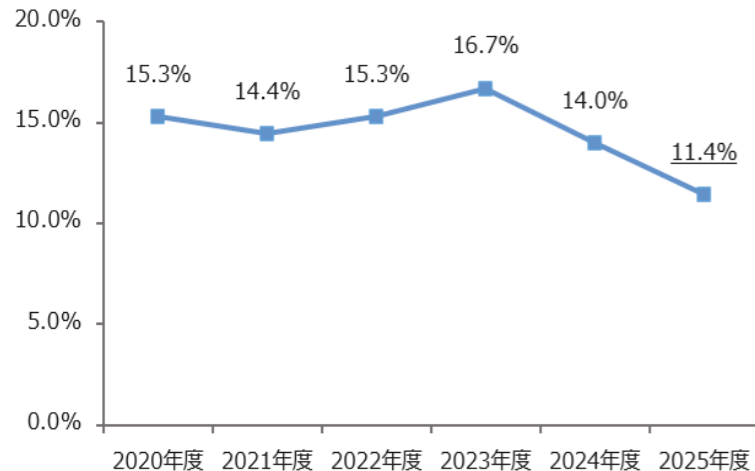


2025年度 プライム市場平均  
**1.6倍**

- 資本効率の改善
- 成長期待の醸成

の両面から低下傾向にあるPBR水準の向上を図り、  
中計で掲げた**目標時価総額500億円**  
の達成を目指す。

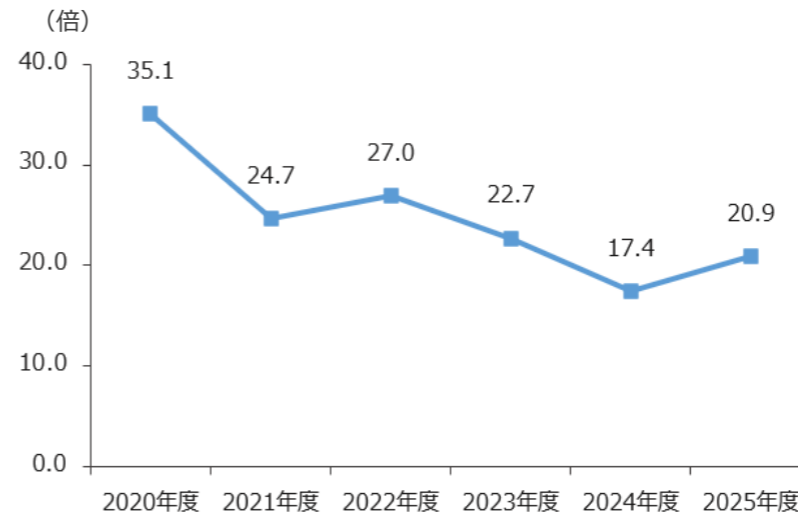
ROE



物流の安定稼働やソリューション事業の拡大などを通じて収益性の向上を図り、ROE15%超を目指す

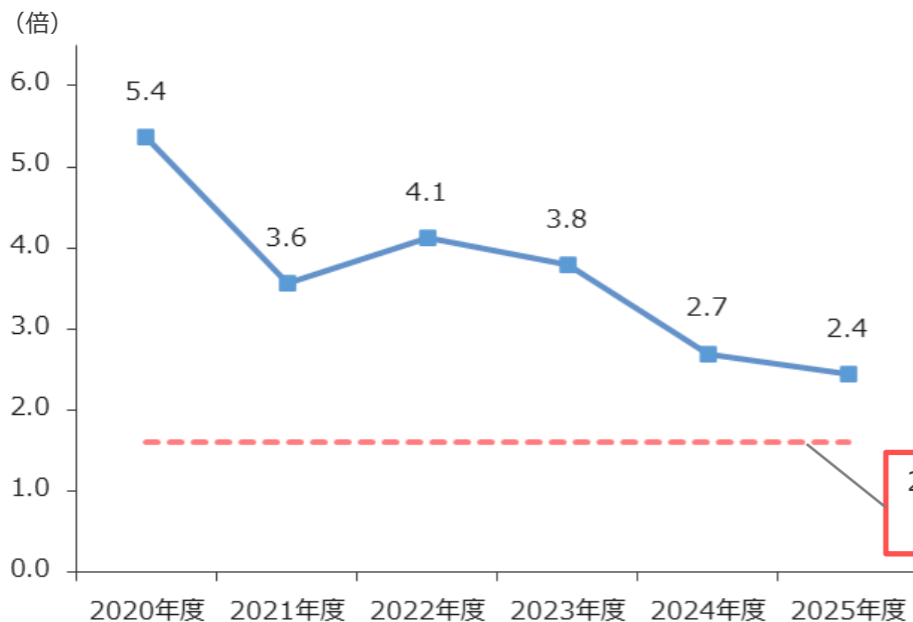
×

PER



中計の着実な実行と業績の伸長を通じて、市場の期待感を醸成

PBR



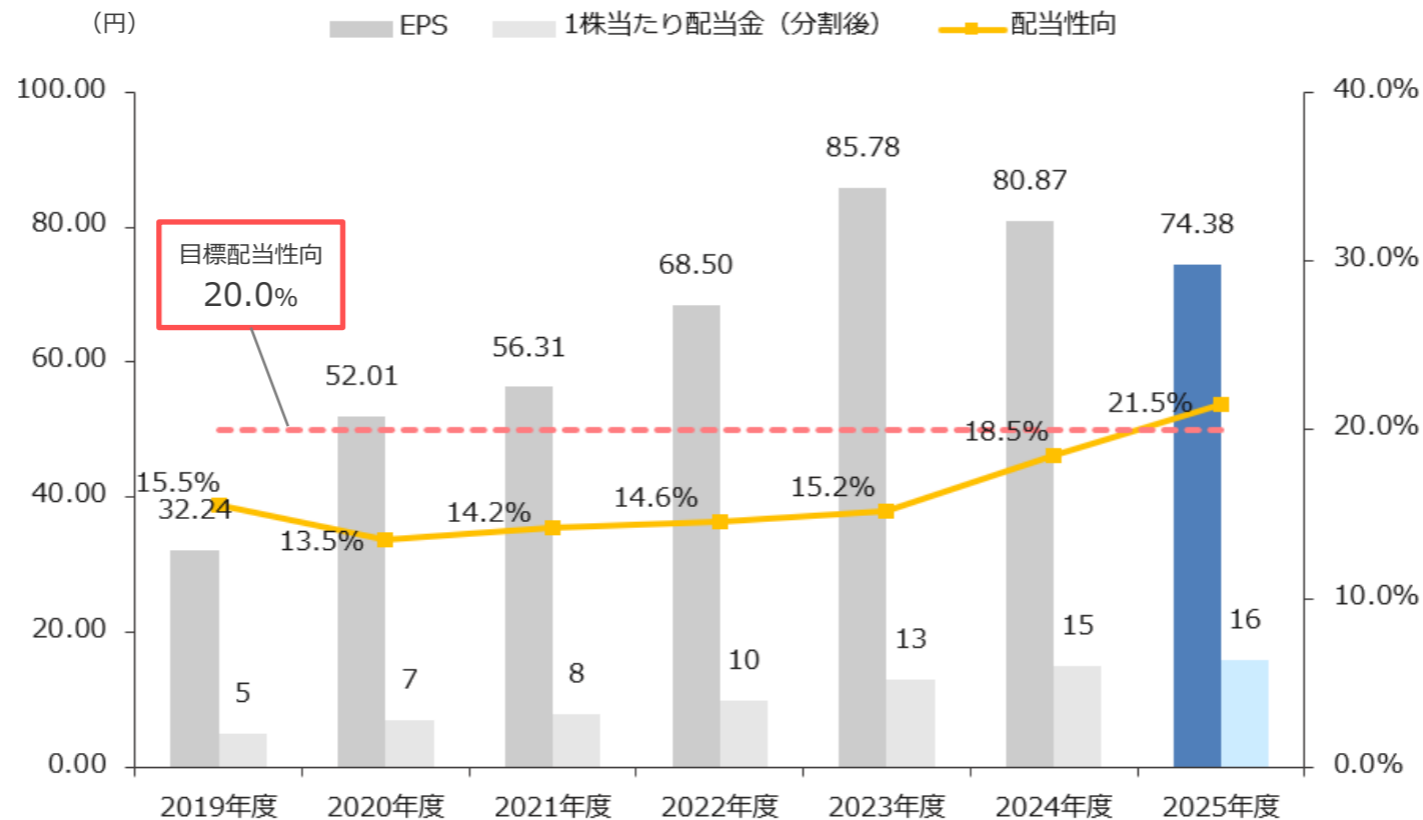
2025年度 プライム市場平均  
**1.6倍**

- 資本効率の改善
- 成長期待の醸成

の両面から低下傾向にあるPBR水準の向上を図り、  
中計で掲げた**目標時価総額500億円**  
の達成を目指す。

- 減益基調につき、EPS（1株当たり純利益）も減少傾向。
- 一方、直接的な利益還元も重要な経営課題であると考え増配を行ってきたため、一時的に配当性向は21.5%へ上昇し、目標配当性向20%を超える水準となった。
- 2026年度は業績の回復が見込まれるため、業績結果に応じた配当を実施予定。

EPSと1株当たり配当金、配当性向



- 減益基調につき、EPS（1株当たり純利益）も減少傾向。
- 一方、直接的な利益還元も重要な経営課題であると考え増配を行ってきたため、一時的に配当性向は22.0%へ上昇し、目標配当性向20%を超える水準となった。
- 2026年度は業績の回復が見込まれるため、業績結果に応じた配当を実施予定。

### EPSと1株当たり配当金、配当性向

